

健康寿命

2022. 1. 7

現在の日本は、団塊世代600万人（1947年～1949年生まれ）が引退しつつある一方で新社会人は年100万人弱である。誰が考えても構造的な労働力不足社会である。年齢に関わりなく意欲・体力・能力が普通にあれば誰でも働ける。

日本の一括採用、終身雇用、年功序列、定年というワンセットの労働慣行をガラパゴス的な労働慣行という人もいる。戦後の高度成長で人口が急増した社会だからこそ成立した独特のものである。世界に目を向けるとアメリカやイギリスをはじめ、ほとんどの国では定年がない。

人間は一生働くのが自然の姿であり、実は働き続けることによってのみ健康寿命も延びるという人もいる。お医者さんに「健康寿命を延ばすにはどうすればいいですか」と聞けば、「働くことが一番」と答えるだろう。

健康寿命が延びると介護が減る。寝たきりのお年寄りがいるのは日本だけという話もある。『欧米に寝たきり老人はいない』という本も出ている。

定年の廃止は、労働力不足の解決に貢献する。いったいいつまで働かせるつもりだと反発する方もいるだろう。40歳で仕事をやめて後は好きなことをして暮らすと思う人は、40歳まで必死に働いて、お金を貯めればよい。私の知り合いは、50歳で仕事をやめて、悠々自適に暮らすと決めている。もっと働きたいのに自然年齢で自動的に働けなくなるような人為的な制度はどうかという話である。

とはいえ、定年後はゆっくりしたいと考えている人は多いだろう。定年まではがんばろうとモチベーションを維持している人もいるだろう。何がよいのか。日本のように変わることをよしとしない国において、今までの制度を見直し、新しいシステムを構築していくのは容易なことではない。

少子高齢化、何度も耳にし、目にしてきた言葉である。日本が抱える大きな課題の一つである。先送りにするにも限度というものがある。少子化も高齢化も一筋縄ではいかない問題である。年頭にあたり、まずは高齢化の方にターゲットを絞って考えてみた。少子化よりは高齢化の方が何とかなる気がするのは私だけだろうか。

誰でも健康で長生きしたいと思うだろう。長生きすることは大事なことだが、健康でいることはもっと大切なことである。いかに、健康なまま長生きができるか。健康寿命という観点から生きることを考えていきたい。